

内田議員（民主県政会）

平成 27 年 2 月 16 日
教育長答弁実録
(教 育 委 員 会)

(問) 異文化交流による教育の推進について

長崎県では、対馬・壱岐・五島という離島にある3つの高校において実施している離島留学制度において、対馬高校では韓国語を、壱岐高校では中国語や東アジアの歴史を、五島高校ではスポーツをそれぞれ学ぶという特色のある課程を設けており、校内の授業で外国語を学ぶだけではなく、海外の高校との生徒相互派遣や交流事業等を実施し、表面的ではない、お互いの文化を学ぶ交流を行っている。

本県でもこれまで、「県立学校海外交流推進事業」を実施し、全ての県立学校が、アメリカやカナダなど英語圏のみならず、中国や韓国、台湾などアジア圏の学校とも姉妹校提携を結んでいる。

『学びの変革』アクション・プラン」の中で取り挙げられているグローバル化に対応した教育を進めるに当たっては、これまでの姉妹校提携を生かし、英語はもとより、中国語やハングル語など、提携先の言語を積極的に学び、文化的な交流を図ることで、より深い交流が可能となるとともに、英語以外の多言語教育も図ることができ、特色ある学校づくりにもつながると考えるが、このような取組の実現可能性について、所見を伺う。

(答)

県立学校におきましては、平成25年度までに全ての学校が海外の学校との姉妹校提携を行ったところであり、英語圏のみならず、アジア地域において7つの国・地域の62の学校と提携を行っているところでございます。

これらの学校におきましては、カリキュラムの選択科目として提携先の言語を開講している学校もあり、姉妹校交流と相まってその言語の学習効果が高まっているところでございます。

また、生徒を姉妹校へ派遣したり姉妹校から受け入れたりすることで、相手国・地域の言語・文化をより効果的に理解する機会を得ることが可能となっております。

この度策定いたしました「学びの変革」アクション・プランにおきましても、グローバル化する社会で活躍するための実践的なコミュニケーション能力などの

育成に向けて、小学校から発達段階に応じた系統的な取組を推進することとして

おります。

教育委員会といたしましては、こうした取組が更に活性化し、特色のある学校づくりにも繋がるよう、引き続き、各学校の取組を支援してまいりたいと考えております。